

[北方林業研究室]C. その他 : 3. 湿地帯造林試験

青木, 尊重
九州大学農学部附属演習林 : 助教授

宮崎, 安貞
九州大学農学部附属演習林 : 助手

今田, 盛生
九州大学農学部附属演習林 : 助手

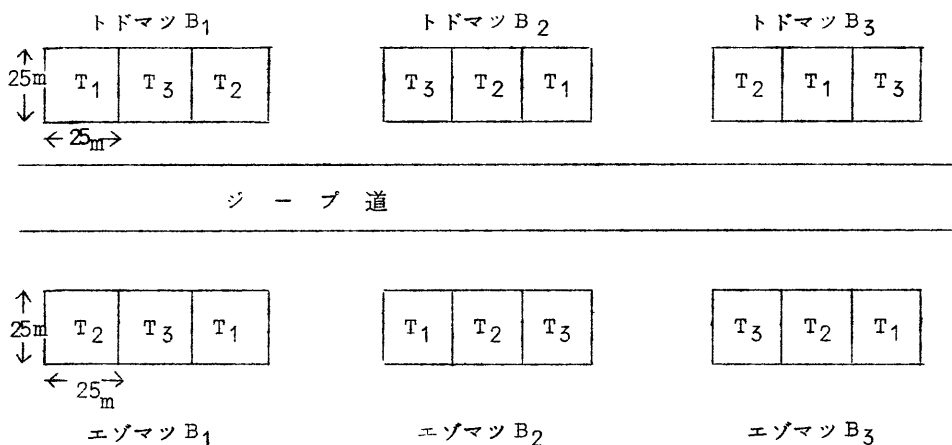
中井, 武司

<https://doi.org/10.15017/1456279>

出版情報 : 演習林研究経過報告. 昭和41年度, pp.136-146, 1967-07-10. 九州大学農学部附属演習林
バージョン :
権利関係 :



第1図 Plot の 配 置 状 況



(3) 現 況

エゾマツの苗木は5年生で小さく、昭和41年11月現在では約10%枯損したものと推定されるが、第1回目の越冬後の状況が注目される。トドマツは6年生苗木で、活着はきわめて良好であつたが、エゾマツと同様に第1回目の越冬後の結果が注目される。

3. 湿地帯造林試験

本演習林には、北海道特有の湿地帯が相当の面積を占めているから、これらの地域に適する造林樹種を選定するため、有望樹種と考えられるドイツトーヒ、ストロブマツ、グイマツ、ヤチダモを植栽し、その生長量を調査することにした。

(1) 調査地概要および調査結果

本演習林第25林班の湿地帯に昭和35年4月、以上の樹種を植栽し、その一部に第2表に示すような調査地を設定した。

第2表 調 査 地 の 面 積

樹 種	面 積
ド イ ツ ト ー ヒ	0.10 ^{ha}
ス ト ロ ー プ マ ツ	0.08
グ イ マ ツ	0.08
ヤ チ ダ モ	0.10

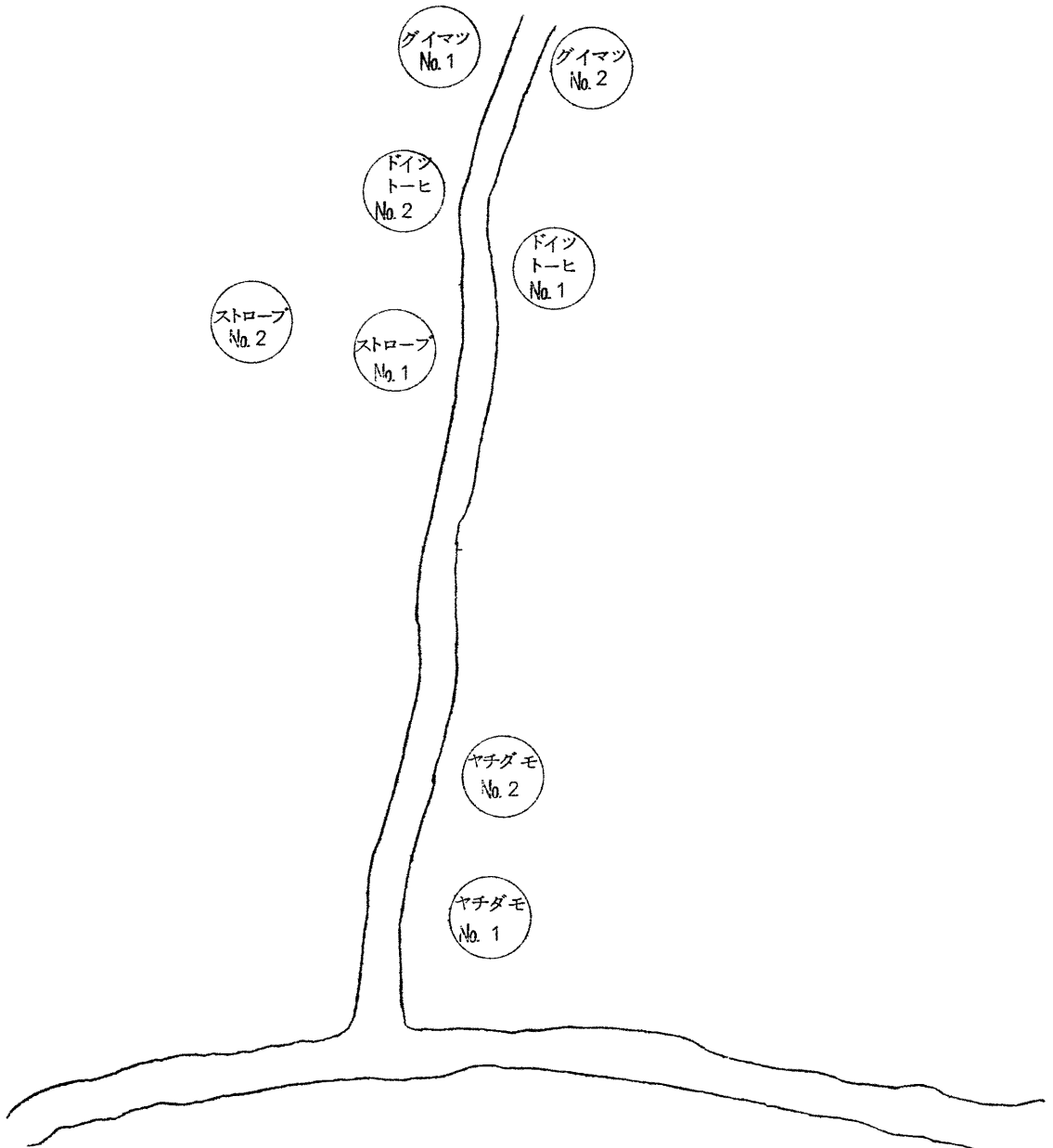
本年度においては、8月4日にこれらの調査地内に無作為に半径約5.65mの円形plot($\pi \times 5.65^2 \div 100 m^2$)を各樹種ごとに2箇所ずつとつて調査した。その調査結果を示すと第2～10図のとおりである。

第 2 図

湿 地 帯 造 林 地 標 準 地 調 査 (2 5 林 班)

P l o t 位 置 図

S 4 1 . 8 . 4



至 28, 29 林班

第 3 図

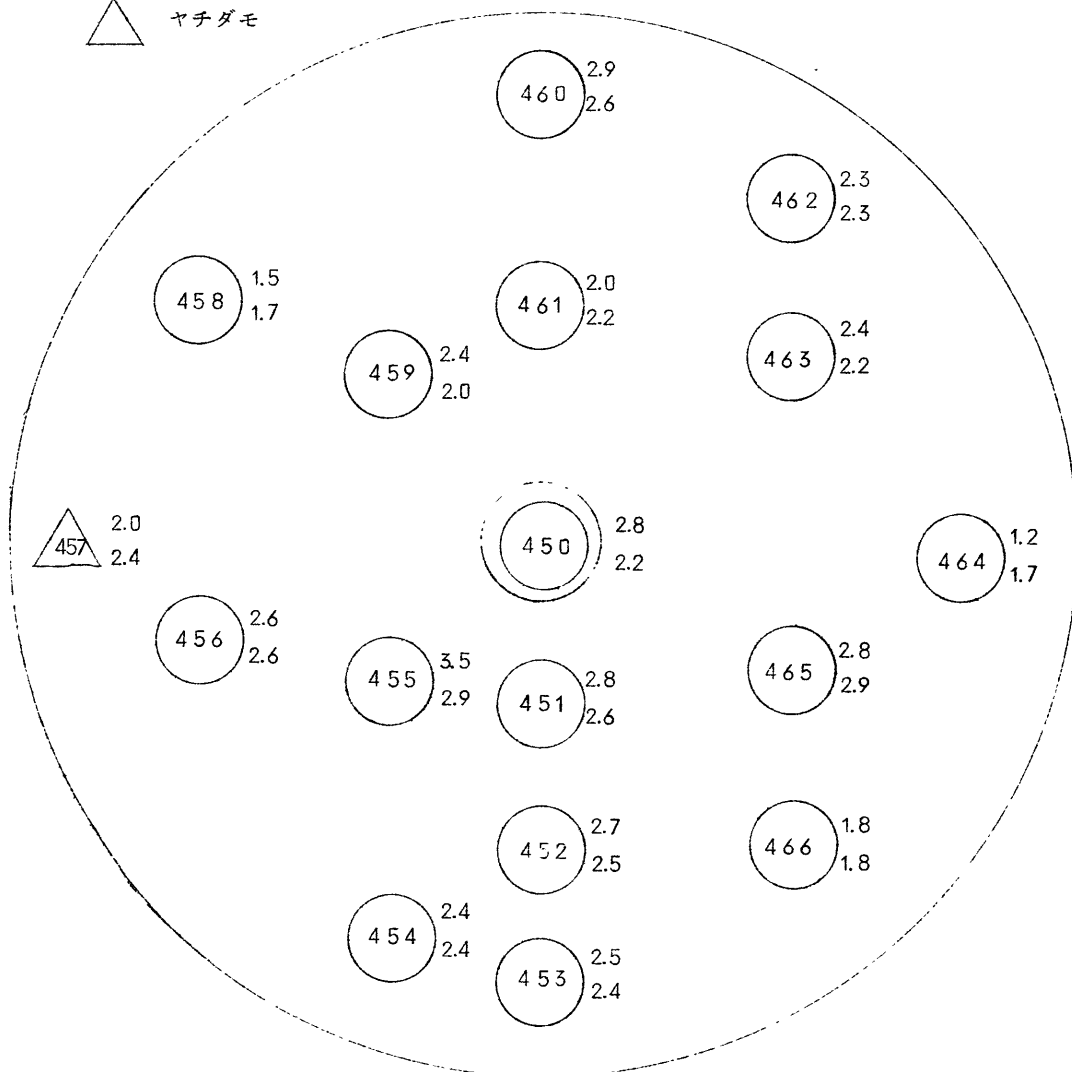
ドイツトーチノ 1 調査地



ドイツトーチ



ヤチダモ

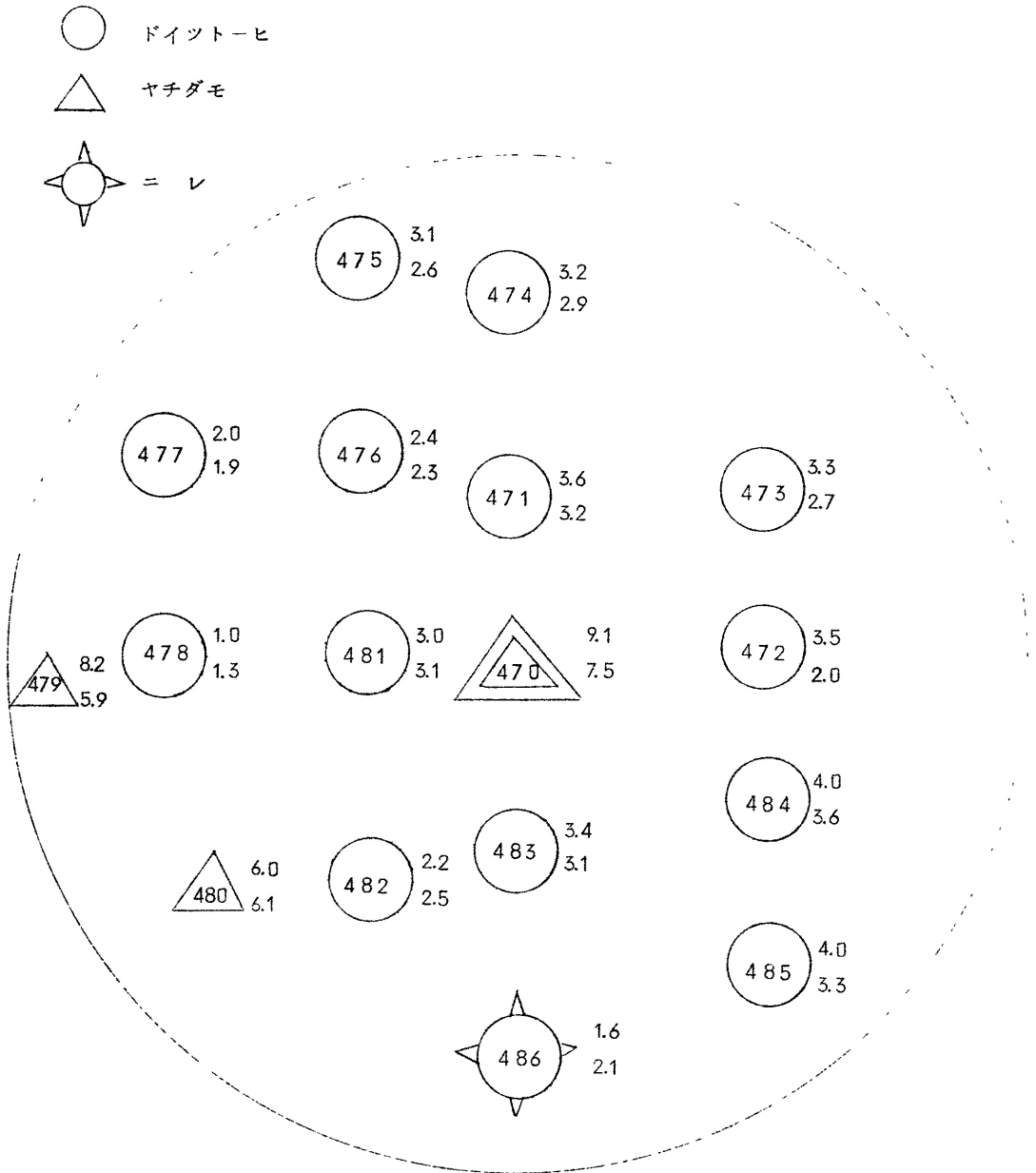


面 積 1 0 0 m^2
 本 数 1 7 本
 平均直径 2.4 cm
 平均樹高 2.5 m

D 2.4 cm
 トーチ H 2.3 m
 N 1 6 本

第 4 図

ドイツトーヒ No. 2 調査地



面 積 1 0 0 m^2
 本 数 1 7 本
 平均直径 3. 7 cm
 平均樹高 3. 4 m

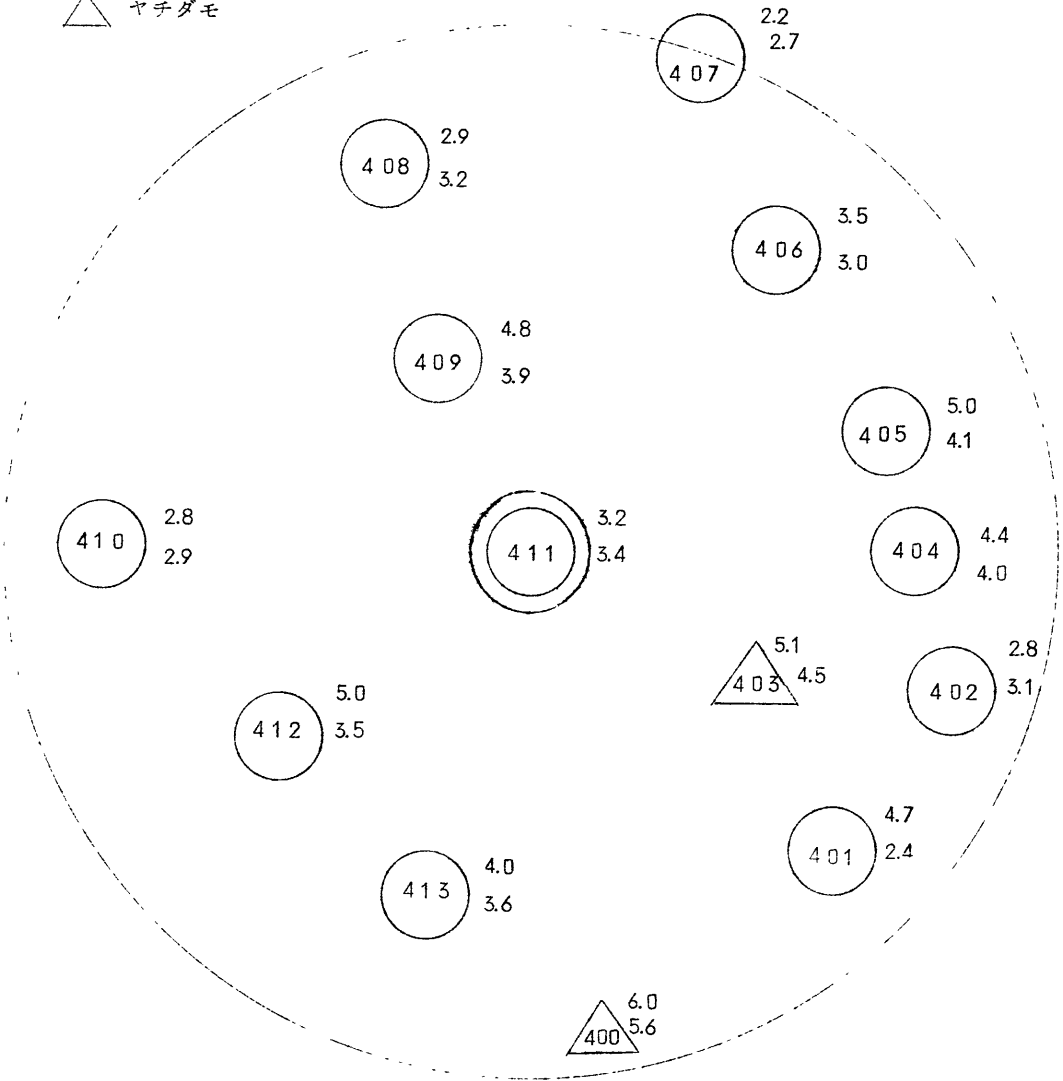
D 3. 0 cm
 トーヒ H 2. 7 m
 N 1 3 本

第 5 図

グイマツ No.1 調査地

○ グイマツ

△ ヤチダモ



面 積 100m²

本 数 14本

平均直径 4.0cm

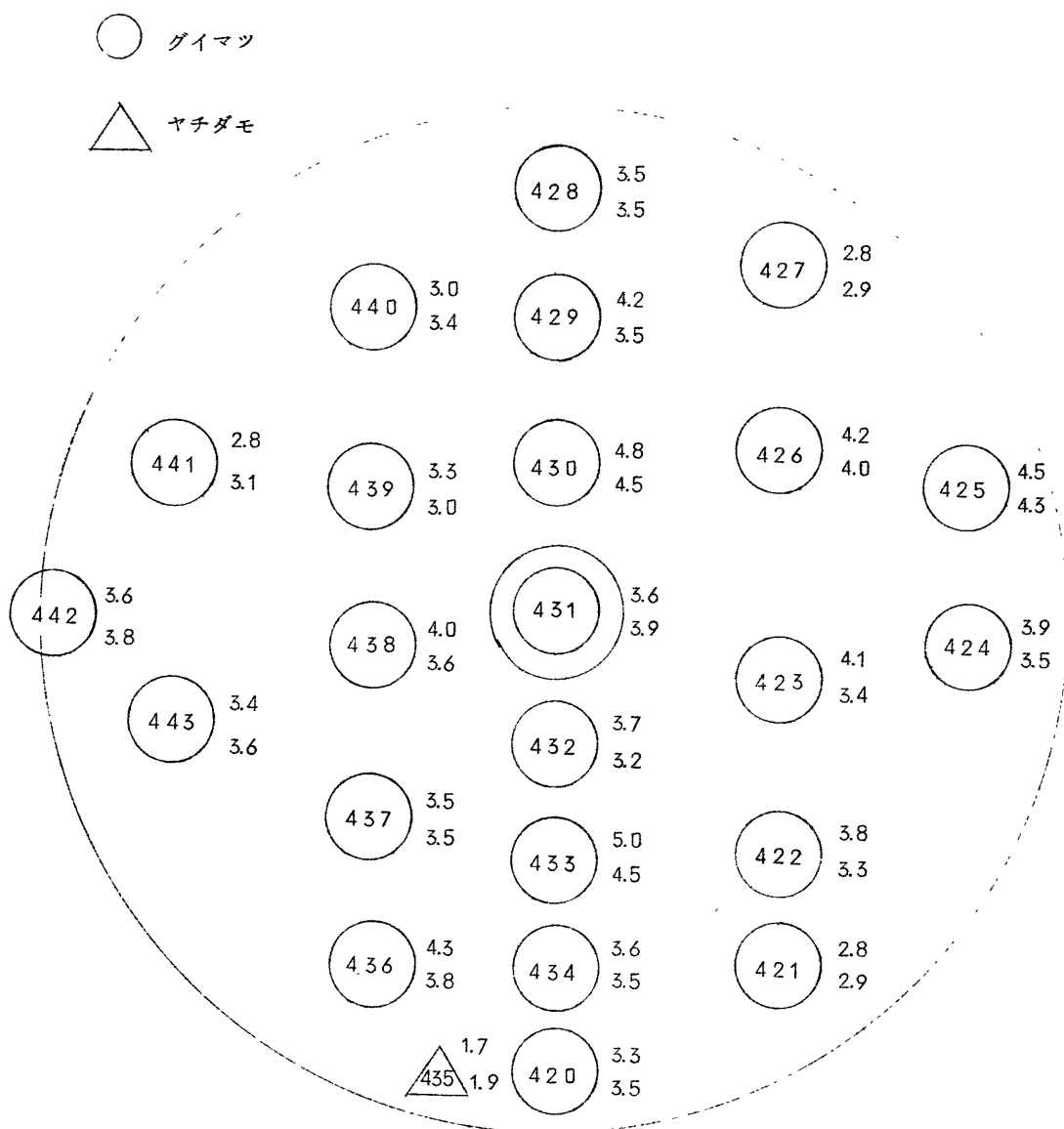
平均樹高 3.5 m

D 3.8cm

グイマツ H 3.2 m

N 12本

第 6 図 グイマツ No. 2 調査地



面 積 1 0 0 m^2
 本 数 2 4 本
 平均直径 3.7 cm
 平均樹高 3.5 m

D 4.7 cm
 グイマツ H 3.6 m
 N 2 3 本

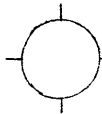
第 7 図 ストロープ No. 1 調査地



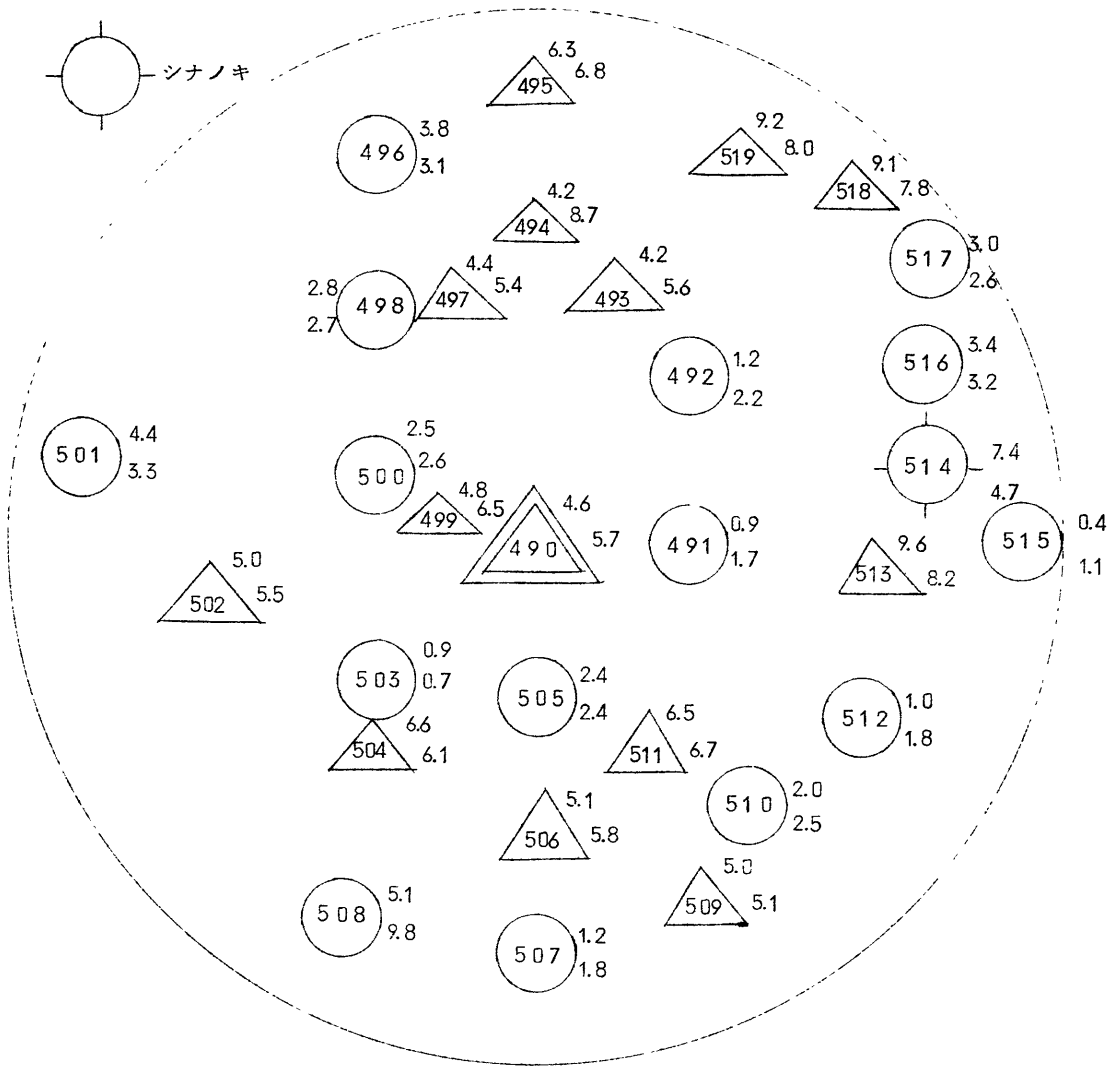
ストロープ



ヤチダモ



シナノキ



面 積 1 0 0 m^2

本 数 3 0 本

平均直径 4.4 cm

平均樹高 4.4 m

ストロープ

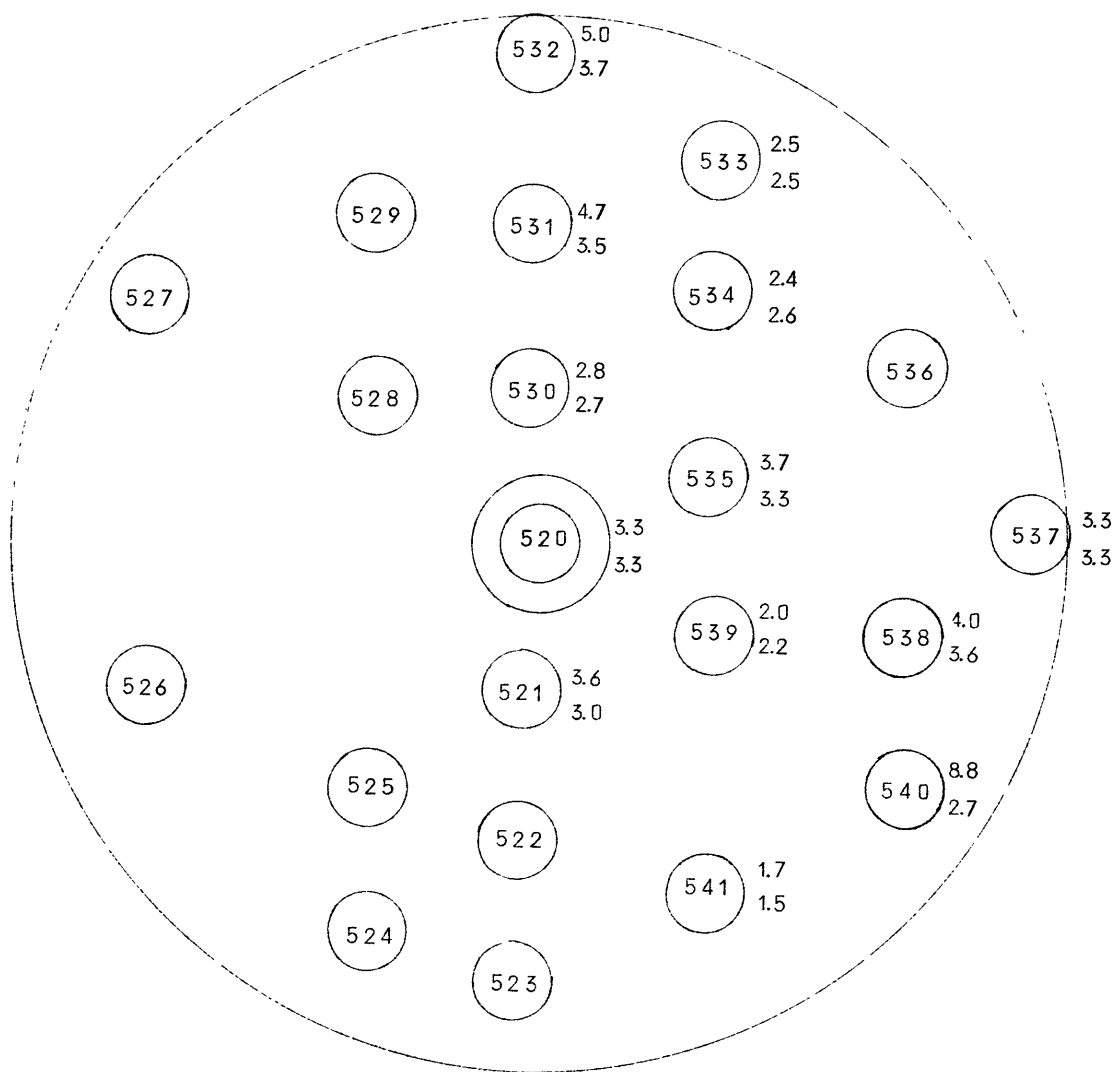
平均直径 2.3 cm

ノ 樹高 2.4 m

本 数 1 5 本

第 8 図

ストロープ No. 2 調査地



面 積 1 0 0 m^2

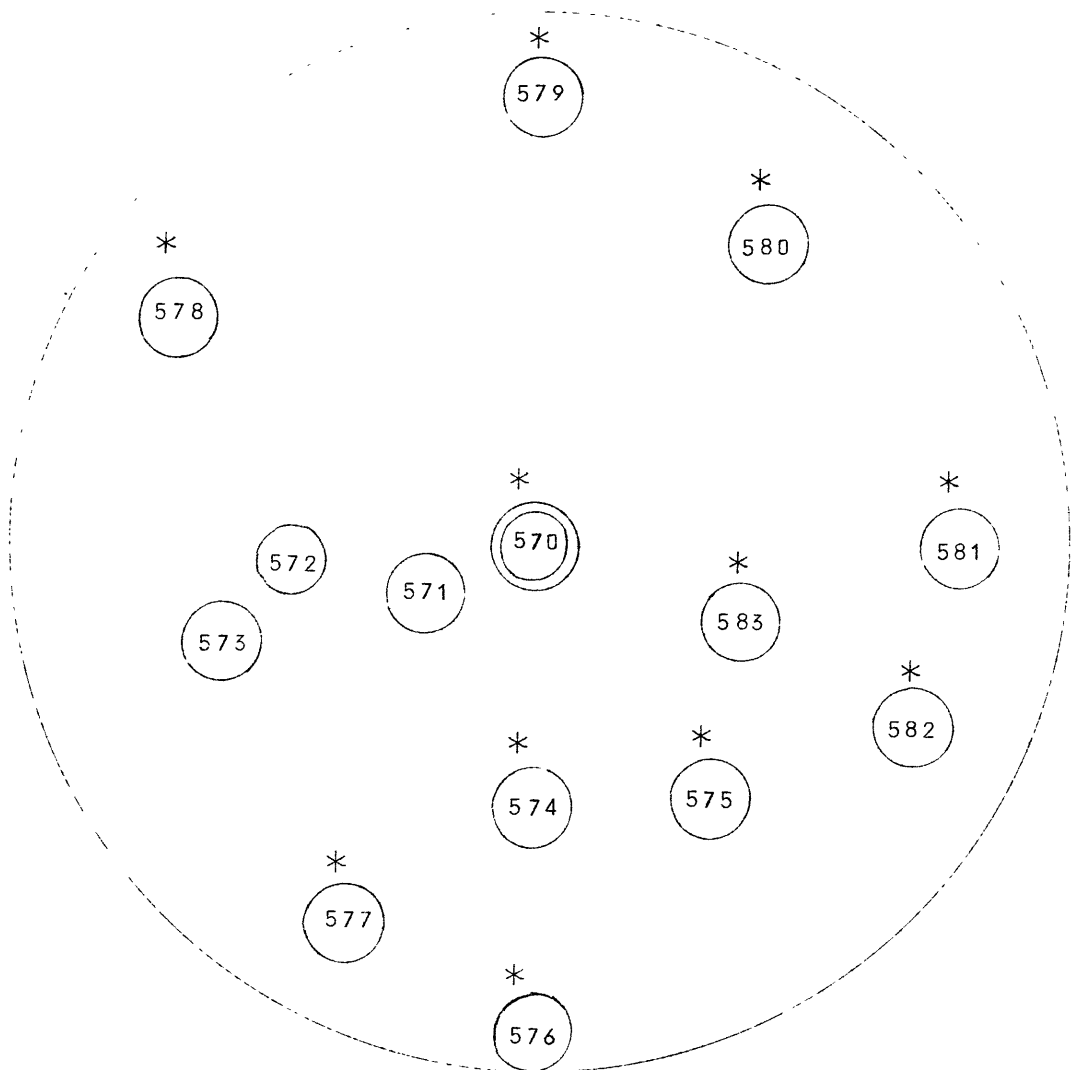
本 数 2 2 本

平均直径 3. 3 cm

平均樹高 3. 0 m

第 9 図

マチダモ No. 1 調査地



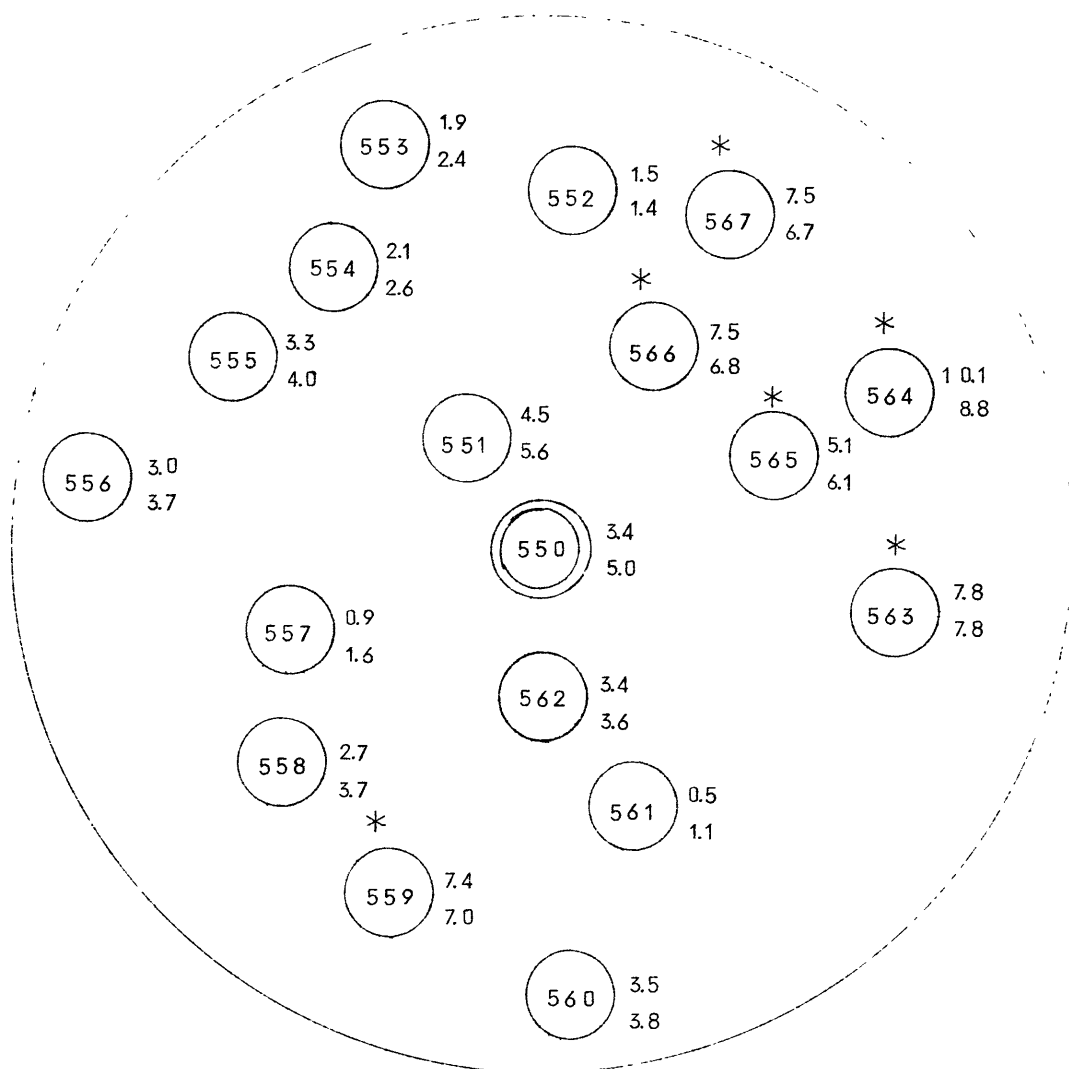
面 積 1 0 0 m^2

*印は人工造林木

本 数 1 4 本

平均直径 9.0 cm

平均樹高 7.7 m



面 積 1 0 0 m^2

*印は天然更新木

本 数 4.4 cm

平均直径 4.7 m

平均樹高 17 本

(2) 考 察

本年度の調査結果による ha 当り成立本数および平均樹高を、5 年前の昭和 36 年 7 月の調査結果と対照して示すと第 3 表のとおりである。なお本年度の結果は、2 plot の調査結果を合計し、その平均値として示したものである。

第 3 表 調 査 結 果 の 比 較

樹 種	比較要素	昭 36. 7(A)	昭 41. 8(B)	(B)－(A)
ド イ ツ ト ー ヒ	ha 当り成立本数	1,600 本	1,450 本	150 本
	平均樹高 (m)	0.67 m	2.48 m	1.81 m
ス ト ロ ー プ マ ツ	ha 当り成立本数	1,963	1,850	113
	平均樹高 (m)	0.79	2.76	1.97
グ イ マ ツ	ha 当り成立本数	1,925	1,750	175
	平均樹高 (m)	0.89	3.47	2.58
ヤ チ ダ モ	ha 当り成立本数	1,570	700	870
	平均樹高 (m)	0.35	3.93	3.58

第 3 表にみられるように、ドイツトーヒとストローブマツはほぼ同様の生長過程をたどつていると認められるが、グイマツは前二者よりも生長量が多い。ヤチダモはこの調査に関する限り、最も生長量が多い。ただしこのような結果になつたのは、ヤチダモ植栽地に天然更新によるヤチダモが混入しており、現在では植栽木と明確に判別することが困難となつており、天然更新木の一部をも調査に含めたためであり、また plot の設置位置にも原因があるものと推察される。したがつてヤチダモの生長量は、実際にはこの値より相当低いものと推測される。

植栽後 6 年間を経過したにすぎず、今後 5 年間隔で測定を継続し、今後の経過をみることにする。

4. カンパ類直播造林試験

カンパ類は本道の広葉樹の中で生長がはやく、短期育成林業の対象となる樹種のひとつである。そこでカンパ類造林の合理的方法を追求するため、ブルドーザによる地表処理を行ない直播造林